

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]
作成日 平成 21年 3月 16日

【評価実施概要】

事業所番号	0792830010		
法人名	株式会社 エコ		
事業所名	グループホーム みらい		
所在地	福島県西白河郡矢吹町八幡町827番 (電話) 0248-42-2950		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成21年2月19日	評価確定日	平成21年3月31日

【情報提供票より】(平成 21年 1月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	16人	常勤	14人, 非常勤 2人, 常勤換算 11.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1階建ての ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	4月~10月12000円 11月~3月15000円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,200円

(4) 利用者の概要

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	3名	要介護2	9名		
要介護3	5名	要介護4	1名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84.7歳	最低	55歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	会田病院・岩谷歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

木造平屋造りで、近隣には大型のスーパーやホームセンターがあり、消防署からも数百メートルの距離に位置している。広い敷地に建てられ、共用スペースも広めに造られ、利用者はゆったりと過ごしている。又、どの出入り口も施錠は無く利用者は自由に中庭などに出られ、非常に開放的な事業所である。
職員は理念を理解し、利用者が暖かみのある生活ができるように支援されていた。家族の訪問も多く、訪問時の情報交換なども頻繁に行なわれており、家庭との連携を大切にしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価の、「地域とのつきあい」と「災害対策」に対し、取り組みが必要だとされたため、地域との交流に努め、備蓄の確保をし、改善している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員が各自分担し管理者がまとめるという方法で取り組んでいた。しかし、職員は評価の意義などについて理解していなかったため、今後は、管理者を中心に話し合うなどして理解を深め、改善に向けて活かせるよう取り組んで欲しい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5) 運営推進会議は、定期的に行われ、事業所から行事や事故などについての報告がされ、委員から活発に意見が出されていた。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) みらいだよりを毎月発行し、行事の写真を載せ一ヶ月の報告の他、手書きでの近況コメントを添えたり、金銭管理報告をしている。又、家族が来訪したときにも近況報告の他、意見や要望を聞き取り、運営に反映させるよう努めている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近隣の傾聴ボランティアや地元出身の歌手の訪問などがあり、利用者の楽しみとなっている。また、自治組合に入会し、清掃活動などにも参加し相互協力の関係が築かれている。
重点項目④	

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の「人間の尊厳を大切にする」という理念を踏まえ、事業所独自の理念を「地域の中で穏やかな暖かみのある生活の場の提供」とした。暖かみとは、利用者一人ひとりの意向にそった介護の提供であると全職員が共通の認識をしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が毎朝の申し送り時に理念を唱和したり、いつも目に入るように玄関やリビングに掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の方々とは、散歩の時に挨拶を交わしたり、地元出身の歌手や地域のフラダンス愛好会・傾聴ボランティアの人々の訪問があったりと交流は深まっている。また、清掃活動等の地域行事に参加し、地元の人との更なる交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は、前回の評価を踏まえ、自己評価内容を分担し、サービス内容について振り返り、全体を管理者がまとめた。しかし、残念ながら職員は、評価の意義を理解するまでには至っていなかった。		運営者・管理者は、職員に外部評価を行う意義の説明をし、評価を活かす事ができるよう取り組んで欲しい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の運営や利用者状況・事故等についての報告をし、行事についての説明等を行い、委員からの意見や質問はサービスの質の向上に活かされている。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月一回定期的に金銭管理や日常的な生活・行事の報告がされている。その内容には行事参加の写真や手書きのコメントが添えられて、暖かみのある内容となっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見等は、プランの変更時などを利用して、定期的に聞くように努めている。また、家族の来訪時などを利用して、職員が意見などを聞き取り、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は異動や離職が最小限に抑えられるよう、職員と話す機会を持ち、悩みなどの相談の機会を設けている。やむを得ず離職となった場合は、新任者にベテランの職員と一緒に業務に入ってもらい、利用者に対する対応が職員により異なることがないよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修後、一ヶ月単位でサービスの提供内容を振り返る機会を設け、知識や技術の共有化を図っている。しかし、外部研修や現任研修などの参加実績が乏しく、内部計画と外部の研修の参加計画は立案されていない。	○	管理者は、研修の必要性を感じている。福島県認知症グループホーム連絡協議会へ入会し、今後は外部の研修にも参加する予定であるが、特定の職員に偏らないよう計画的に、段階に応じた研修が受けられるようにして欲しい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の事業所交流で、職員が利用者となり利用者を体験する訪問研修を相互に行い、研修後は体験談として発表し、経験を知識として共有化している。しかし、法人外の同業者との交流は行っていない。	○	今後は、法人外の同業者と視察研修等、積極的に交流し、サービスの質の向上に取り組んで欲しい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と共に過ごす時間を大切にし、日常的な会話の中で高齢者から見た、ものの考え方やとらえ方などを学び、支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	朝の検温の時間や10時のお茶の時間を利用して、1日の流れと希望をその都度確認し、本人本意で暮らせるよう努めている。しかし、利用者の生活歴等のアセスメントに乏しい。	○	今後は、家族からも情報を得ながら、利用者に関する情報の収集に努めて欲しい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成にあたって、必要な関係者と話し合っているが、生活歴や趣味・嗜好などのアセスメントが乏しく、更なる利用者の真の気持ちにそった計画になる余地を残していた。	○	利用者の生活歴や趣味・職業などは重要なポイントとなるので、今後は更に利用者や家族等とアセスメントをして職員間で共有し、意図的な働きかけをして課題を見つけたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しがされている。体調の変化や、見直し以前に生じた変化に対しては、本人、家族と話し合いが行われている。ケースカンファレンスは定期的に行われ、本人の状態を確認し、現状に即した新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者側の希望により、かかりつけ医と事業所の協力医に受診している。受診には家族又は職員が付き添い、お互いに詳細に状況報告をし合い情報を共有しながら、対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化、終末期に向けた事業所の方針を説明し、事前確認書に署名をもらっている。又重度化した場合でも日頃から主治医との連携は密にし、本人や家族も交えて話し合いがされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人の尊厳に配慮した言葉遣いや対応が行なわれている。利用者には入居時に個人情報の「利用目的と保護」について説明し同意を得、又、職員とも個人情報に関わる誓約書が取り交わされ、日々職員間で注意し合っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が我が家で過ごす様に体調や気分に合わせて生活できるよう支援している。その日をどのように過ごしたいかの希望は、朝の検温時やお茶の時間を利用して聞いている。職員と折り紙を折ったり、日向ぼっこをしたり、自分のペースで気ままに生活をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は同じテーブルにつき笑顔で自分のペースで美味しそうに食事を楽しんでいる。収穫期には、自家栽培の野菜が食卓に上がる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的には週2～3回とし、利用者の希望に合わせている。入浴をしたがらない利用者に対しては無理を強いることなく、時間をずらして声掛けしたり、声掛けする職員を変えたりして入浴が出来るよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	折り紙を折ったり、食事の準備や片付け、掃除等、利用者の得意とすることを職員も一緒に行なったり、見守りながら支援している。又利用者の希望で、職員と一緒に出来るゲームを楽しむなどの機会もつくり気晴らしの支援につなげている。		今後は更に、利用者の生活歴の把握を行い、役割、気晴らし、楽しみごとの支援の質を上げて欲しい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	天候や利用者の希望に合わせて、近辺の散歩や近所のスーパーでの買い物、ドライブと、閉じこもりにならないよう外出の支援をしている。中庭の畑の種まき、手入れ、収穫等は庭に出る機会も多い。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、非常口、その他、出入り口はすべて施錠していない。出入りは自由で開放的であり、職員は利用者の動向を見守り、把握している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は5月に事業所独自で1回と11月に消防署立会いの下で、運営推進会議のメンバーが見守る中、夜間を想定した訓練を1回、計2回行っている。しかし、運営推進会議を通して、地域の協力を呼びかけているが、現在まで地域住民の参加は得られていない。	○	災害時には地域住民の協力が不可欠であるため、早急に協力体制を築くことが望まれる。また、あらゆる場面を想定して定期的に災害訓練をされることが望ましい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によりバランスの取れた献立が作られており、食事摂取量、水分摂取量は毎食記録するシステムで職員間で共有している。体重測定も月1回行ない、体調管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間のリビング・ダイニングキッチン・廊下・トイレ（居室以外の）は広く明るく、採光もテレビのボリュームも室温も適切に調整されている。その中で利用者は好みの場所で思い思いに過ごしている。玄関には季節の花が置かれ、壁や衝立には利用者が参加した数々の行事の写真などが貼られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、ゆったりとしたスペースがあり、家族への働きかけもあり、各居室には本人が使い慣れた家具や思い出の品が持ち込まれており、利用者一人ひとりが居心地良く過ごせるよう配慮されている。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホームみらい

記入担当者名 綱川 美恵子

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。